

国際経験に基づく寧夏清真飲食業に関するいくつかの示唆

咸春林

寧夏大学

キーワード； 国際経験 清真飲食業 対策研究

主旨；

歴史上では、寧夏は自然の牧場であった。特に、塩池 靈武 同心 海原などの地域の生態環境は、牛、羊の放牧に適していた。そこで生産された牛と羊は肉質が柔らかく、栄養がたっぷりで、生くさくなく、無汚染などで全国でも名を馳せている。まして、百年以上のイスラム地域文化により、清真飲食業という特色産業を孕み育ててきた。目下、全国各地で優勢特色資源を開発している地域が発展する中で、どのように清真飲食業を特色経済に転換させるかは寧夏の新しい課題になっている。清真飲食業を開発することは、寧夏にとって重要な意味がある。それは“三農”問題の解決を促進するだけでなく、地域経済の発展にも、更に地域農業の産業化と民族の団結を促進することもできるからである。寧夏の清真飲食業は、市場、資源及び産業面では優位性があるけども、人材資源が乏しく、市場競争意識が薄いなどの要因で、その成功と開発が制約されている。国際市場の現状から見ると清真飲食業の開発はますます盛んに行われている。マレーシア、タイ、アメリカ、カナダなどの国ではすでに成功したモデルケースが見られる。寧夏としては、国際の経験を大胆に参考にして、積極的に清真飲食業を開発する現代的な運営方法を模索すべきである。本報告は、寧夏の清真飲食業の開発現状に基づいて、国際経験と国内との比較研究をした上で、転換理念を提起し、ブランド品を作り、全国品質認証システムを健全化し、協会の役割を発揮することなどを通じて、寧夏の清真飲食業の合理的な開発、及び対策研究を行うものである。